

令和6年11月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：令和6年11月28日（木） 午後2時30分～午後4時10分

開催場所：岡崎市役所福祉会館2階 201号室

出席委員：7名

杉野丞委員（会長）・荒井信貴委員（会長職務代理者）・奥田敏春委員・杉坂美典委員・堀江登志実委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員

欠席委員：2名

内田尚之委員・鷹巣純委員

説明のために出席した事務局職員：8名

二村雅志教育部長

社会教育課：田中典子課長・原林基昭副課長・遠藤研吾岡崎城跡係長・岡山幸男文化財係長・浦野加穂子主査・平山優主事・水船早紀会計年度任用職員

公園緑地課（担当課）：近藤淳係長・森大輔主事

観光推進課（担当課）：黒川憲子副課長・牛田成将係長

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡勝鬘寺境内地の現状変更（トイレ建て替え工事）について
- (2) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（崩落危険石垣への対応）について

2 その他

- (1) 次回の審議会開催について

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡勝鬘寺境内地の現状変更（トイレ建て替え工事）について

【事務局説明】

岡崎市針崎町にある宗教法人勝鬘寺より屋外トイレの老朽化及び排水機能不良のため、既存の建物の取り壊しを行い、新設するために現状変更が出された。新設建築物は既存建築物と同じ場所に建築を行う予定で、既存建物の基礎内で取り壊し及び掘削作業が収まるため、現状変更による史跡への影響は生じない。

【質疑応答】

委員：発掘調査状況についてとトイレ横の木への影響はどうか。

事務局：平成18年は境内地北側の試掘・発掘調査を行い、中世の溝2条等を確認。平成22年は平成18年の調査区の南側にて発掘調査を行い、中世の遺構を確認。平成24年は境内地北、東端で試掘調査を行い、建物の一部とみられる柱の穴を確認。令和4年には、東側で立ち合い調査を行った。既設建物の基礎が深かったため遺構面は確認されなかった。

事務局：遺構面は過去の調査から考慮すると、現況のGLから50から60cm下がったところが出てくると考えている。全体で考えると木自体が遺構面まで達していると想定できる。今回の工事では、いじる予定はないので遺跡の破壊はない。

委員：工事前、業者に配管の位置等を計測してもらって、図面に記載しておくべき。

諮問結果：可とする。

(2) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更(崩落危険石垣への対応)について

【事務局説明】

石垣の変状を確認するために設置しているガラス棒に割れ等が見つかった。城跡整備委員会で報告し、崩落の危険を指摘され対策を取るべきとの意見が出たことから、その対策に伴う現状変更を申請する。対象は、太鼓門石垣、持仏堂石垣、本丸埋門石垣の3箇所。

1箇所目の太鼓門石垣は、全体的な孕みだしはないが、築石が1石飛び出している。城跡整備委員会の委員による、全体的な石垣の孕み出しはないため、積み直し範囲が限られるとの意見から、積み直しによる対応をとることにした。積み直し前の発掘調査は、修復を行うことを目的とした基礎資料収集の調査のため、不要な掘削を避け、史跡への影響は最小限に留める。

2箇所目の持仏堂石垣は、石垣が全体に孕み出しており、崩落の危険がある。孕み出しが広範囲にわたり石垣を積みなおすには費用が高額になるため、石垣を保護するネットを設置する。ネットは、熊本城や犬山城などの多数の城で用いられている樹脂製のネットを使用。

3箇所目の本丸埋門石垣は、北側、南側の両面の石垣が全体に孕み出しており、崩落の危険がある。孕み出しが広範囲にわたり石垣を積みなおすには費用が高額になることから、石垣を保護するネットを設置する。

持仏堂石垣及び本丸埋門石垣については、石垣保護ネットの設置にあたり、アンカーの設置を行う必要があるが、設置場所については城跡整備委員に確認を取り、遺構への影響を最小限に抑える。

本案件については、令和6年10月3日の城跡整備委員会に諮り審議いただいた。

【質疑応答】

委員：アンカーを止める位置は上になると考えられる。アンカーを打つことで、遺構が破損し、石垣が倒壊する可能性も考えられるが、できるのか。

事務局：施工方法は、龍城掘の奥の一番下にアンカーを入れる予定。一番傷つかない方法をとる。

委員：他所の例を参考にしてほしい。

諮問結果：可とする。

2 その他

(1) 次回の審議会開催について

令和7年2月に開催予定。